

はじめに

地域の識字・日本語教室では、さまざまな目的をもった方々が文字のよみかきや日常の会話を学んでおり、学習者にとって、教室は学習の場であると同時に、生活面のさまざまな相談が行える場でもあります。

そのような地域の識字・日本語教室を担っている多くの方は日本語教育の専門家ではなく、市民ボランティアとしての学習支援者であり、学習者に寄り添い、学習者の興味や関心のあることから、日常生活での疑問などを題材にとり入れ、学習者のニーズに合わせた学習活動を行っています。

平成29年度の調査では、大阪府内の約200の教室で、約5,200人の学習者が約2,900人の学習支援者とともに学習活動を行っていますが、教室からは、「学習者の増加に対し学習支援者が不足している」や「個々の学習者に適した教材が不足している」といった意見がありました。

また、大阪府の在留外国人数は、平成30年12月現在約240,000人で全国で3番目に多く、国による新たな在留資格の創設により、今後さらに在留外国人が増加することが予想されます。

大阪府では、こうした状況において、地域の識字・日本語教室の一助となるよう、国、市町村及び関係機関と連携を深めて教材の開発・提供・学習支援者の養成などに取り組んでおり、今回、聞く、読む、話すといった活動から学べる、初級学習者向けの教材を作成いたしました。

多くの方が学ばれている府内の識字・日本語教室でこの教材が活用され、学習者と学習支援者がともに学びを深めていかれることを期待しています。

最後になりましたが、この教材作成にご協力をいただきました皆さまに改めてお礼申し上げます。

令和2年3月

大阪府教育庁
市町村教育室
地域教育振興課長